

**「渋谷新文化街区プロジェクト」のビル名称を「渋谷ヒカリエ」に、  
中核施設となる劇場名称を「東急シアターオーブ」に決定  
～渋谷駅周辺の開発が本格始動～**

東京急行電鉄株式会社

東京急行電鉄（本社：東京都渋谷区、社長：越村 敏昭）および東急文化会館跡地の隣接街区の権利者で組織する「渋谷新文化街区プロジェクト推進協議会」では、現在推進している共同開発事業「渋谷新文化街区プロジェクト」の施設名称を、渋谷から未来を照らし、世の中を変える光になるという意志を込めて「渋谷ヒカリエ」と決定しました。竣工は2012年春の予定です。

併せて、本施設の中核となる当社所有のミュージカル劇場の名称を「東急シアターオーブ」と決定しました。

「渋谷ヒカリエ」は高さ約182.5mのガラスを中心とする透明感のあるファサードの超高層複合ビルで、変化し続ける渋谷の街のシンボルタワーとして、「新たな価値を創造、発信していくプラットフォーム」となることを目指します。オフィス、商業、劇場をはじめとする文化施設など、多様な機能を掛け合わせることで、複合施設の枠を超え、街とつながり、人、モノ、情報の活発なコミュニケーションを生み出します。

当施設のデザインコンセプトは、「Live・Open・Synergy」です。渋谷の街を行き交う人々の多様性や躍動感に相応しい光を感じさせる透明のファサードや空間づくり、渋谷の街や駅への多様なアプローチを可能とする歩行者ネットワークに加え、先進の環境性能を備えています。

また「渋谷ヒカリエ」の11階～16階には、宙空のミュージカル劇場「東急シアターオーブ」が誕生します。

「オーブ」とは天体、地球や球体を語源とする言葉です。その言葉を冠することで、近未来的な球体のフォルムをまとい宙空に浮かぶ劇場の特徴を表現し、スケールの大きさを印象づけることを企図しています。

高層部に位置する18層のオフィスフロアは、総貸床面積が渋谷最大級の約38,000㎡（約11,500坪）で、柔軟性に富んだ整形の大空間により、多様なワークスタイルに対応します。エキシビジョンホールなどタワー内の施設の活用、マーケットが近く、情報発信性の高い渋谷のポテンシャルを最大限に活かすことで、ビジネスの創造性を高めます。

渋谷には音楽や映像、アート、ファッションなど、様々なジャンルのエンターテインメントがあり、更にはコンテンツ系企業をはじめ価値創造型の企業が集積しています。また、人のエネルギー、クリエイティビティやチャンスに溢れた街でもあり、常に新しいトレンドや文化を切り拓いてきました。中でも1956年に開業した東急文化会館は、時代を先取りするライフスタイルを提案し続けてきました。そのDNAを引き継いで誕生する「渋谷ヒカリエ」を起点に、銀座線の移設など渋谷の都市基盤は歴史的な変化を遂げていきます。「いつも動いている・いつも新しいことが始まっている街、渋谷」は、訪れる人に感動をもたらし、希望あふれる未来を創造し続ける街として進化していきます。

「渋谷ヒカリエ」および「東急シアターオーブ」の詳細は別紙のとおりです。

なお、「渋谷ヒカリエ」の概要についてはホームページ（<http://www.hikarie.jp/>）からもご覧いただけます。

以上

【別紙1】

「渋谷ヒカリエ」の概要

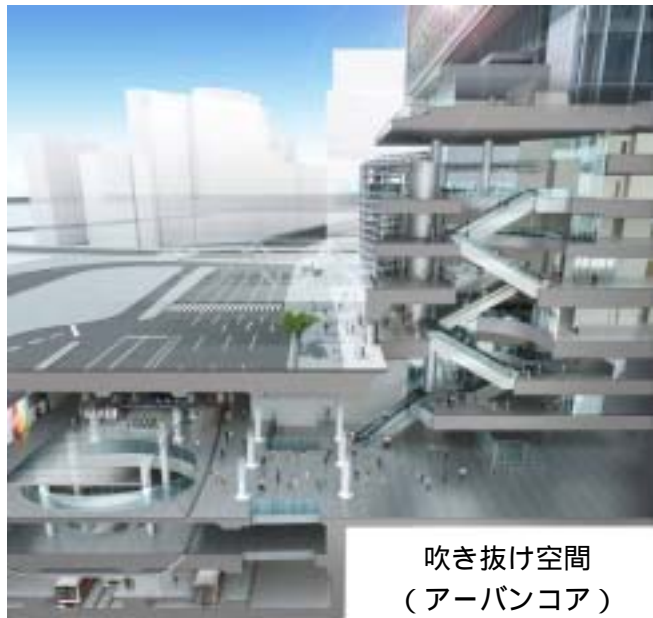
本計画地は、都市再生特別措置法に基づく都市再生緊急整備地域内に位置しており、2008年3月に東京都市計画都市再生特別地区の都市計画決定がされました。本開発計画は、これらの上位計画および本計画地の立地特性等より、以下の2点を特徴としています。

(1) 渋谷を代表する情報発信拠点に相応しい用途構成

本開発計画は、地上34階、地下4階の高層複合施設で、鉄道8路線が乗り入れる日本有数のターミナルである渋谷駅東口に位置します。都内初のプラネタリウムや画期的な大劇場「パンテオン」をはじめとした複数の映画館などで構成され、最先端のライフスタイルを提案してきたかつての東急文化会館のDNAを引き継ぎ、中層部の文化施設には約2,000席の本格的ミュージカル劇場、情報発信性の高い様々なイベントに最適な1,000㎡および300㎡のエキシビジョンホール、才能あふれるアーティストの表現の場「クリエイティブ・ラボ」を設置しています。またビルの顔となる商業施設には、東急百貨店が出店します。高層部にはオフィスを配し、次の時代を担うような企業を集積させ、建物全体で新たな価値を創造し、街の情報発信拠点となることを目指します。

(2) 渋谷の街全体の活性化、環境を意識した施設計画

本開発計画では、周辺の坂状の地形を活かし、渋谷駅や明治通り、宮益坂、青山方面等、渋谷の街の個性を演出する多様な街と、5つのフロアで接続する歩行者ネットワークを形成するとともに、縦方向の移動を容易にする地下3階から地上4階に亘る吹き抜け空間（アーバンコア）を整備することを予定しています。特に、東急東横線・東京メトロ副都心線渋谷駅とは地下3階で直結するなど、街の交通結節点としての利便性を高めるとともに、周辺街区との回遊性や賑わいの創出を通じて渋谷の街全体の活性化を目的とした計画であることが特徴です。また隣接する渋谷駅の自然換気機能を内包し、敷地面積の約30%を緑化するなど、先進の環境性能を備えています。



吹き抜け空間  
(アーバンコア)

施設外観パース

### 「渋谷ヒカリエ」名称・ロゴマークについて

「渋谷ヒカリエ」は、当社が権利者の代表として推進しており、これまでにない新しい発想の複合ビルとして、オフィス、文化施設、商業施設が一体となり、街とつながり、渋谷から日本、世界を変えていく施設を目指します。

ロゴマークには、「Hikarie(光へ)」というネーミングから、文字「Hikarie」に光を照らし、ロゴが昇ってくるイメージを出し、色は光輝く明るいゴールドを基調としました。

# Shibuya Hikarie

### 「東急シアターオーブ(Tokyu Theatre Orb)」

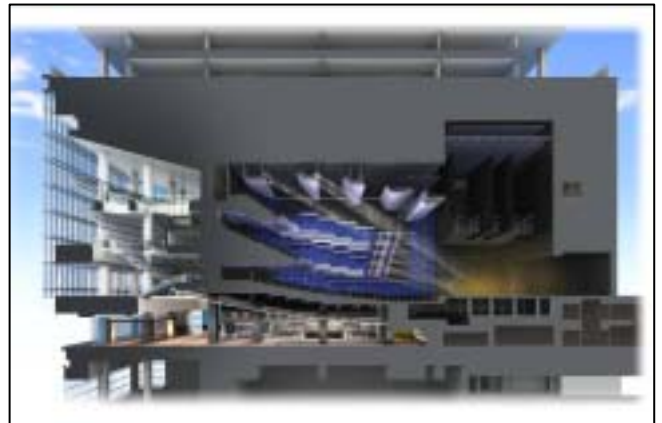
地上約70mの宙空に誕生する約2,000席の本格的ミュージカル劇場

「東急シアターオーブ」では、国内外のミュージカルをはじめとする第一級のエンターテインメントを提供します。きらめく渋谷の街の夜景が楽しめるなど非日常の華やぎを演出する開放的なホワイエ、客席と舞台の一体感に加え、多様な演出や表現を可能とするフレキシビリティにこだわった劇場空間は、作品の持つ力を余すところなく観客の皆様へ伝え、夢と感動のひとつときをお届けします。

なお、本劇場の計画推進にあたっては、東急グループ複合文化施設「Bunkamura」の20年間に亘るノウハウを最大限に活用していきます。



劇場内部



劇場断面

### 渋谷ヒカリエを起点とした今後の渋谷の開発事業について

本開発計画地を含む渋谷駅周辺地域では、2005年12月に都市再生緊急整備地域に指定されて以来、行政機関、鉄道事業者、地元関係者などを中心に、都市基盤の整備に関する検討が本格化しました。昨年6月22日には、駅前広場の再編、東京メトロ銀座線渋谷駅の位置変更などを含む都市計画決定がなされるなど、駅周辺部の開発の全体像が徐々に具体化しつつあります。「渋谷ヒカリエ」はこれらの先駆けとなるプロジェクトであり、2012年度には東急東横線と東京メトロ副都心線の相互直通運転が開始されるなど、当施設の開業を起点に渋谷駅周辺の開発事業は本格化していきます。

以上

【別紙2】

計画建物の概要

事業主体	渋谷新文化街区プロジェクト推進協議会 東京急行電鉄株式会社 東京地下鉄株式会社 東宝不動産株式会社 奥野ビル株式会社 田中ビル株式会社 嘉栄ビル株式会社 株式会社ヒラゼンビル
所在	東京都渋谷区渋谷二丁目21番地ほか
用途	商業、オフィス、文化施設、駐車場ほか
敷地面積	約9,640㎡
延床面積	約144,000㎡
用途別面積	商業 約32,000㎡ オフィス 約50,000㎡ 文化施設 約24,000㎡ その他 約38,000㎡
階数	地上34階、地下4階
高さ	約182.5m
予定工期	本体工事 2009年7月～2012年春 関連工事 2012年春～2017年春
設計	(株)日建設計・(株)東急設計コンサルタント共同企業体
施工	東急・大成建設共同企業体
開業	2012年春(予定)

フロア構成

B3F - 7F	商業施設
8F	クリエイティブ・ラボ
9F	エキシビジョンホール
11F	シアターガーデン(オフィス・劇場エントランス)
11F - 16F	劇場
17F - 34F	オフィス



渋谷ヒカリエ完成後俯瞰イメージ



計画位置図